

住民懇談会 まとめ

地域福祉について、住民の皆さんと一緒に考えていく住民懇談会を10月10日から27日の間、町内6地区で開催しました。

懇談会では、テーマである「みんなで支えよう地域の福祉」について、住民の皆さんからさまざまなご意見をいただきました。その一部を抜粋してお知らせします。

なお、懇談会の内容については町ホームページに掲載しています。

●問い合わせ 秘書広報課 内線223



みんなで支えよう地域の福祉

地域福祉とは

地域福祉とは、誰もが安心して暮らせるよう、“そこ”に暮らす皆さんが、お互いに協力して地域の福祉課題の解決に取り組む考え方です。

介護保険制度の改正で広がる選択肢

平成29年度からの介護保険制度の改正により、サロンやお助け隊などの地域にあるサービスを使うことができるようになります。

6月に行ったケアマネジャー対象アンケートによると、要支援の軽度な方は、掃除や洗濯など、生活の一部を支援して欲しいという方が多いという結果でした。介護する人材が減少する中、掃除や洗濯などは資格を有するヘルパーに頼らず、地域の皆さんで支え合いましょう。

町の現在…

町の課題

- ①いつも開設しているサロンがありません。
- ②お助け隊などの互助制度もありません。

そこで、東浦町地域福祉計画では、次の計画を作りました。

- ①常に開いており、気軽に立ち寄れるサロンをつくろう！
- ②各コミュニティで「地域福祉」について話し合い、地域の課題解決に取り組もう！



森岡

- 住民** シニアカーのレンタカー制度を創設してはどうでしょうか。
- 住民** シニアカーがあれば、買い物に行けるし、カフェなどの居場所への移動手段になります。
- 住民** 森岡には長い坂もあるし、免許証を返納して、シニアカーをレンタルできれば良いと思います。
- 住民** シルバー人材センターをうまく活用していただきたいと思います。
- 住民** 町のごみ出し支援制度など、せっかく町が良い制度を作ってくれたのに、知らない人も多いです。
- 町長** 発展すると見えそうな意見もあり、行政だけでなく、地区でも煮詰めていくと面白いかもしれません。



藤江

- 住民** 居場所を提供するだけでなく、同じ思いを持つ人たちの声が届く地域づくりをしていきたいです。
- 住民** 自分のできることで、人の役に立つことがあったなら、生きがいになると思います。
- 住民** 挨拶があまりないのが問題です。大きな声で挨拶をすることは、一番大切なことだと思っています。
- 住民** コミュニティ加入率の低下に伴い、回覧板などの情報伝達ができない状態をどのように解決するかが問題です。
- 町長** 挨拶は交流の第一歩です。また、地域で何か活動を行っているということが大事だと思います。やってみたいと思っている方をつないでいくようなことが必要かもしれません。そのための場を作っていきたいです。

緒川

住民 障がいのある方への理解が不足しているのでは。お互いの理解が必要だと感じます。

住民 「スマイル緒川」では、高齢者の見守りを想定して始めた活動に、障がい者に関する相談が寄せられました。

住民 「スマイル緒川」の活動が、地域の見守りまで発展していったら良いと思いますが、1団体だけでは無理があります。あらゆる団体から人を出してもらって、常設型サロンを作っていくべきではないでしょうか。



町長 自分のことは自分で、地域のことは地域でというように、そこに何が 필요한のか理解している方が行動するのが、一番効率がいいと思います。行政と地域の皆さんと考えながらまちづくりをしていけたらと思います。

緒川新田

住民 居場所作りをしようとする、いろいろな課が関わってきますが、課によって考え方が異なります。役所の中でも横の連携を大切にしてほしいし、意思の統一を図ってほしいです。

住民 新田地区では、「認知症予防カフェ」を開催しています。最近では40人ほど集まっています。



住民 居場所づくりカフェやサロンへよく行きますが、参加者は女性が多く、男性の高齢者の参加は本当に少ないです。

住民 草刈りなど体を動かせる社会参加であれば、男性は参加しやすいのではないのでしょうか。

町長 今日参加していただいた皆さんは、普段から地域のことを考えて行動されている方がほとんどだと思います。大事なのは、こうした場にあまり参加していない方にも、考え方や気持ちが伝わることだと思います。



石浜

住民 粘り強く話し合いを続けたことで、地区組織のなかった石浜中央地区に回覧板をまわす組織ができました。これも住民同士のつながりにより生まれた福祉なのかなと思います。



住民 子ども会・婦人会などの組織が弱体化してきています。皆さんにどのように参加してもらうかは本当に大きな課題です。

住民 コミュニティや行政が多世代交流のきっかけを作っていくってほしいです。

町長 高齢の方は、他者から「してもらう」ばかりでなく、自分たちにできることから「していく」ことが大事だと思います。老人クラブやスクールガードの方の活動を見ていると、住民参加の種はあるのかなと感じています。



生路

住民 うららのファミリーサポート制度の高齢者版を作ってみてはどうでしょうか。

住民 お助け隊があればいいと思うのと同時に、家の中を見せたくないという葛藤があります。

住民 今年から老人クラブに入りました。小学校や保育園へ行ったり、自分にも役立つところがあるのかなと思うことができ、楽しいです。

住民 同じマンションに住んでいる50代の女性住民の意見交換会を開いています。50代から自治を始めたきっかけは、今から始めれば、自分たちが高齢になったときに十分間に合うと思ったからです。

町長 介護サービスとお助け隊の守秘義務などの葛藤の意見がありました。工夫して、いろいろなことを考えてみてはどうでしょうか。マイナスなことを考えるのではなく、プラスに考えて、「面白そう」という発想が地域づくりに大切なことです。